

介護職員初任者研修カリキュラム

1. 職務の理解 (6 時間)				
○ねらい				
研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。				
項目名	1. 多様なサービスの理解			
	講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・研修課程全体 (130 時間) の構成と関連性を理解し、全体像をイメージする。 ・介護福祉士までのキャリアシステムについて ・介護福祉における様々な資格 ・「介護」とは～「狭義の介護」、「広義の介護」 ・「介護の印象」「介護の仕事の魅力」について ・介護サービスの仕事とは？ 介護保険制度で提供される代表的な居宅サービス・施設サービスの理解	3	3	—
項目名	2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解			
	講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。 ・講師の介護経験談 【ビデオ視聴】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な現場で働く介護従事者の紹介 介護職の具体的なイメージを持って各科目の学習に取り組めるようにする。	3	3	—
	合計	6	6	—

2. 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間)				
○ねらい				
介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。				
○評価のポイント				
<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 				
項目名	1. 人権と尊厳を支える介護			
	講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数

【講義】 ・ 尊厳とは何か ・ 利用者の自立と自律、相互依存と共生、ノーマライゼーション、QOL などの概念について ・ 利用者の尊厳のある生き方と介護との関連を概説する。 ・ 虐待防止、身体拘束禁止法、高齢者の養護者支援について理解する。 【演習】 事例を通じて個人・グループワークで虐待防止を考える。 【通信課題の概要】 人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度（個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業）について		5	1.5	3.5
項目名	2. 自立に向けた介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
【通信課題の概要】 自立支援とはどのような支援か、残存能力の活用、意欲を引き出す支援、個別性/個別ケア、重度化防止、介護予防の考え方、介護予防施策について		4	—	4
合計		9	1.5	7.5

3. 介護の基本 (6 時間)				
○ねらい				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・ 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 				
○評価のポイント				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・ 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・ 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 ・ 生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 				
項目名	1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
【講義】 介護に関わる職種（異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担）について概		2	1.5	0.5

説する。 【通信課題の概要】 介護環境の特徴（訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性）について、介護の専門性（重度化防止・遅延化の視点、自立した生活を支えるための援助、根拠のある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種からなるチーム）について。				
項目名	2. 介護職の職業倫理			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【講義】 職業倫理について、専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重に関して概説する。 【通信課題の概要】 利用者のプライバシーについて、介護福祉士の職業倫理に関して。		2	1.5	0.5
項目名	3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【通信課題の概要】 介護における安全性の確保（事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード）、事故予防・安全対策（リスクマネジメント、分析の手法と視点）について。		1	—	1
項目名	4. 介護職の安全			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【添削課題の概要】 介護職員の心身の健康管理（メンタルヘルスケア、腰痛予防、感染症対策）について。		1	—	1
合計		6	3	3

<p>4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）</p> <p>○ねらい 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p> <p>○評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。

・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。

・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	1. 介護保険制度			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学時間数	通信時間数	
<p>【講義】 介護保険制度の動向(予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進)について、及び介護保険制度の仕組み全般についてそのポイントを概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 介護保険制度創設の背景と目的、動向、ケアマネジメントについて、介護保険制度の仕組み(保険制度の仕組み、介護給付と種類、予防給付、要介護認定とその手順など)について。制度を支える財源、組織、団体の機能と役割(財政負担、指定介護サービス事業所の指定)について。</p>	3	1.5	1.5	
項目名	2. 医療との連携とリハビリテーション			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学時間数	通信時間数	
<p>【通信課題の概要】 医行為と介護、訪問看護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念について</p>	2	—	2	
項目名	3. 障害者総合支援制度およびその他制度			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学時間数	通信時間数	
<p>【通信課題の概要】 障害者福祉制度の理念、障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解、個人の権利を守る制度の概要(成年後見制度、生活保護法、日常生活自立支援事業)について。</p>	4	—	4	
合計		9	1.5	7.5

5. 介護におけるコミュニケーション技術(6時間)

○ねらい

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。

○評価のポイント

- ・共感、受容、傾聴の態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつき視点の列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	1. 介護におけるコミュニケーション		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について、ケア（配慮）、傾聴、共感の概念を含めて概説する。コミュニケーション技法、道具を用いたコミュニケーションについて概説する。</p> <p>【演習】 コミュニケーション技法の基本について、実演やロールプレイを通して学習する。</p> <p>【通信課題の概要】 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割、技法について、利用者・家族とのコミュニケーション、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技法の実際について</p>	3	1.5	1.5
項目名	2. 介護におけるチームのコミュニケーション		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 ・介護現場における記録の目的と意識を理解し、記録の重要性・種類を理解する。 ・利用者を観察するポイントや記録の書き方、留意点を理解する。 ・チームケアの必要性やチームにおけるコミュニケーションの取り方、ケアカンファレンスの重要性を理解する。</p> <p>【通信課題の概要】 記録による情報の共有化、報告・連絡・相談、コミュニケーションを促す環境について</p>	3	1.5	1.5
合計			
	6	3	3

6. 老化の理解（6時間）			
○ねらい			
加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
○評価のポイント			
・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。			
・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。			
項目名	1. 老化に伴うこころとからだの変化と日常		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 老化に伴う心身の機能変化（日常生活への影響について、咀嚼機能の低下その他心</p>	4	3	1

身機能の変化)を中心に概説する。				
【通信課題の概要】 寿命と老化の特徴、知的能力の老化と特徴、老化によるところとからだの変化、高齢者が転倒しやすくなる原因と注意点について				
項目名	2. 高齢者と健康			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【通信課題の概要】 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点について		2	—	2
合計		6	3	3

7. 認知症の理解 (6 時間)				
○ねらい 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。				
○評価のポイント				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状 (B P S D) 等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 ・ 認知症の利用者とのコミュニケーション (言語、非言語) の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方 (良い関わり方、悪い関わり方) を概説できる。 ・ 家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。 				
項目名	1. 認知症を取り巻く状況			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【通信課題の概要】 認知症の中核症状、認知症の人との関わりについて		0.5	—	0.5
項目名	2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【講義】 認知症の概念、加齢による物忘れとの違い、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 (脱水・便秘・低栄養・低運動・口腔ケア・薬物療法等) の方法について概説する。		2.5	1.5	1
【通信課題の概要】 認知症に似た症状、認知症とは、簡易知能評価スケールについて、認知症の比較、				

健康管理について、				
項目名	3. 認知症に伴うことろとからだの変化と日常生活			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【講義】 ・中核症状と周辺症状を理解するとともに認知症の方の気持ちについて理解する。 ・症状に応じた介護者の対応やコミュニケーション方法について理解する。 ・認知症の進行に合わせたケアの重要性について理解する。 【通信課題の概要】 認知症の中核症状と周辺症状、認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴、認知症の利用者への対応について		2.5	1.5	1
項目名	4. 家族への支援			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【通信課題の概要】 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減について		0.5	—	0.5
合計		6	3	3

8. 障害の理解 (3 時間)				
○ねらい 障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。				
○評価のポイント ・障害の概念と I C F について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。				
項目名	1. 障害の基礎的理解			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【講義】 障害の概念と ICF (ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方)、ノーマライゼーションについて概説する。 【通信課題の概要】 ICF について、身体障害者の定義、障害者基本法について		1	0.5	0.5
項目名	2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【講義】 身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心身の機能障害について概		1.5	1	0.5

説する。 【通信課題の概要】 視覚障害、聴覚・平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害、知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害などについて				
項目名	3. 家族の心理、かかわり支援の理解			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
【通信課題の概要】 家族への支援における、障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減について		0.5	—	0.5
合計		3	1.5	1.5

<p>9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）</p> <p>○ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 <p>○評価のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。
--

項目名	1. 介護の基本的な考え方		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 ICF に基づく介護、法的根拠に基づく介護について概説する。</p> <p>【演習】 グループに分かれて、生活障害という視点から、ICF に基づいて心身機能と活動・参加との関連を図に示した上で介護の役割を挙げる。</p> <p>【通信課題の概要】 介護に関わる法律上の規定や考え方、生活支援としての介護サービス、医療サービスと介護サービスに求められる役割の違い、利用者主体の介護、生活障害という視点、生活の質（QOL）を高める視点の大切さについて</p>	2.5	1.5	1
項目名	2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 介護の実践に必要な人間のこころのしくみの基礎的理解について。学習と記憶、感情と意欲、自己概念と生きがい、こころとからだの密接な関係性について概説する。</p> <p>【演習】 個人が生きることと社会参加との関係から高齢者の心身の健康についてグループワークで討議する。</p> <p>【通信課題の概要】 感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化・障害への適応過程とその阻害要因について</p>	3	2	1
項目名	3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 介護に関連する人体の各部名称・機能に関する解剖・生理学的な基礎知識全般を概説する。</p> <p>【演習】 体の構造を映像で見ながら、部位の名称や機能について受講生に質問・応答しながら理解を深める。バイタルサインの測り方を演習する。</p> <p>【通信課題の概要】 人体の各部名称と動き、骨・関節・筋、中枢神経系と末梢神経系、自律神経と内部器官に関する知識、こころとからだの一体的な理解、把握について</p>	4.5	2.5	2
項目名	4. 生活と家事		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要	時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 生活と家事の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について、生活の再構</p>	3	2	1

<p>築という視点から概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 生活支援としての家事サービス、生活の再構築と価値観、生活の大切な要素（生活歴と多様な生活習慣）、家事援助の方法などについて</p>				
項目名	5. 快適な居住環境整備と介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
<p>【講義】 高齢者、障害者の日常生活に適合する居住環境整備、家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具について概説する。</p> <p>【通信課題の概要】 快適な居住環境、住居の安全と事故防止に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具選択について</p>		5	4	1
項目名	6. 整容に関連したところとからだしくみと自立に向けた介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
<p>【講義】 身体状況、季節、場面に合わせた衣服の選択、着脱の方法、身支度、整容、洗面の方法について実演・概説する。</p> <p>【演習】 クラスをグループ分けし、練習ではペアを組む。 ・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、身支度、整容（洗面、整髪、爪の手入れ、化粧、ひげ剃り、口腔ケア）の方法の模範演技、反復練習、習得度確認を行う。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。</p> <p>【通信課題の概要】 衣服の役割、衣服の着脱時の支援、整容の支援技術、口腔ケアについて</p>		6.5	6	0.5
項目名	7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
<p>【講義】 移動の意義、安全安楽な移動・移乗、体位変換、姿勢保持の方法、ボディメカニクスの基本原理、車いすの操作方法、車いすへの移乗方法、杖歩行の支援や、歩行補助具の使用方法など実演をまじえて概説する。</p> <p>【演習】 クラスをグループに分けて実施 ・歩行補助（片マヒの人、杖歩行の人の歩行及び階段の昇降等、視覚障害者の歩行介助）車椅子の基本操作方法、移動用具、ボディメカニクスの応用、重心・重力の置き方、残存能力の活用の仕方などについて講師が模範演技、反復練習、習得度確認を行う。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。</p> <p>【通信課題の概要】</p>		10	9	1

まひの障害部位、ボディメカニクス、体位の種類、補助具、車いすの基本構造、車いす介助、歩行介助、移動と社会参加の支援について				
項目名	8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 食事の意義、食事と健康、栄養素とその働き、栄養素と食品の関係、献立の立て方、食事介護の方法、嚥下のメカニズム、誤嚥防止、福祉用具の活用方法、介護食などについて概説し、実技指導を行う。</p> <p>【演習】 グループ単位で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生各自に紙コップ、スプーン、手ぬぐい、ハンドタオル、歯ブラシ、食材等をいくつか持参させて、実践的な食事介護の練習を行う。 ・食事介助の基本方法を講師が模範演技し、反復練習する。特に介護者の立ち位置、利用者の姿勢をポイントとする。 ・映像を利用して嚥下のメカニズムを学習し、利用者の状況に合わせた食事介助の方法を講師が模範演技する。受講生はそれに倣って繰り返し練習する。実践練習をとおして習得度確認を行う。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。 <p>【通信課題の概要】 栄養の理解、食品の調理性、食中毒、食事介助の技法、疾患と食事について</p>		7	6	1
項目名	9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】 入浴の介護方法、清潔保持の目的、手浴・足浴・洗髪、陰部洗浄、清拭方法等について概説し、実技指導を行う。</p> <p>【演習】 グループ単位で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に必要な様々な入浴用具、整容用具を紹介する。 ・全身清拭、手浴、足浴、洗髪方法、ケリーパッドの作り方、清拭時の体の支え方を講師が模範演技し、実践練習を行う。目、鼻腔、耳、爪の手入れの方法を学ぶ。 ・ベッド上での陰部洗浄の方法を学ぶ。羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習をとおして習得度を確認する。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。 <p>【通信課題の概要】 入浴の意義とからだに及ぼす影響、入浴・整容に関する用具、入浴介助、ベッド上での足浴、清拭、からだの機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響について</p>		7	6	1
項目名	10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学	通信

		時間数	時間数
<p>【講義】 おむつ交換など排泄介護の方法、ポータブルトイレなど排泄用具の使用法、プライバシーや心理的負担への配慮、尊厳の保持、トイレ介助などについて解説し、実技指導を行う。</p> <p>【演習】 グループ単位で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつやパットの吸収ポリマーの能力、交換方法を学ぶ。 ・ベッドからポータブルトイレへの移乗方法を学ぶ・ポータブルトイレの構造、使用法を学ぶ。 ・ベッド上でのおむつ交換の方法、差し込み便器、尿器の使用法、陰部の清潔保持、洗浄方法を学ぶ。 ・男性と女性の違いによる排泄介助のコツを学ぶ。 ・羞恥心、尊厳を守る環境整備、声かけ、気遣いの方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習をとおして習得度を確認する。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。 <p>【通信課題の概要】 排泄の基礎知識、福祉用具、排尿障害、排便障害と便秘の予防、排泄介助について</p>		6.5	6 0.5
項目名	11. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数 通信 時間数
<p>【講義】 睡眠に関する基礎知識、環境整備と用具の活用方法、ベッドメイキング、褥瘡予防について概説する。</p> <p>【演習】 グループ単位で実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な睡眠環境の作り方、睡眠用具の紹介、活用方法を紹介する。 ・ベッドマット、枕、クッション、ベッド柵の使用法を学ぶ。 ・ベッドメイキング方法を学ぶ。 ・受講生は繰り返し練習し、練習をとおして習得度を確認する。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。 <p>【通信課題の概要】 睡眠に関する基礎知識、環境整備と用具の活用方法、ベッドメイキング、褥瘡予防について</p>		3.5	3 0.5
項目名	12. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護		
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数 通信 時間数
<p>【講義】 人の生死、寿命について考える。終末期ケア、高齢者が死に至るプロセス、利用者ニーズに寄り添う看取りの要件、死に向き合う高齢者の心理、看取りにおける介護職員の基本的態度、臨終が近づいた時の徴候と介護、苦痛を和らげる方法に</p>		4	3 1

<p>ついて概説する。</p> <p>【演習】 講師が示す事例・体験及び映像を見て、看取りの意義についてグループで討議する。受講生各自が「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。</p> <p>【通信課題の概要】 死へのプロセスと介護、在宅ターミナルケアの要件、死にゆく人のこころの過程、看取りにおける介護職員の基本的態度、看取りにおける家族支援、看取りにおける倫理観</p>				
項目名	13. 介護課程の基礎的理解			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
<p>【講義】 様々な介護事例をとおして介護の目的、計画に沿ったサービス提供の重要性、具体的な展開方法、介護過程とチームアプローチなどについて概説する。</p> <p>【演習】 ・具体的な事例を提示して介護計画（個別支援計画）を立案、作成する ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。</p> <p>【通信課題の概要】 介護過程について、介護過程の展開について</p>		6.5	6	0.5
項目名	14. 総合生活支援技術演習			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
<p>【演習】 利用者の具体的な事例を課題として、学習した介護実技を実践的に学ぶ。事例は2事例を用意し、グループ単位で課題に取り組み、介護計画の立案、実技をとおして介護手順の習得と技術習得、レベルの確認、介護後の見直しと今後の取り組みに向けた検討を行う。 ・「振り返り」を書き、学習内容をまとめる。</p>		6	6	—
合計		7 5	6 3	1 2

<p>10. 振り返り（4時間）</p> <p>○ねらい 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</p>				
項目名	1. 振り返り			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学時間数	通信時間数
<p>【講義】 ・今まで学習してきたことを科目ごとに振り返り、総復習を行う。講師との質疑応答を行って、理解不十分な点の見直しと学習を行い、更に習得を深めていくよう指導する。</p> <p>【演習】</p>		3	3	—

<ul style="list-style-type: none"> ・グループで介護職としての身だしなみ、言葉遣い、態度について振り返る。介護職が身につけるべき知識や技術の体系を示して、実習中の気づきに結びつける。今後のキャリア形成について見通しを持つ。 				
項目名	2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修			
講義内容及び演習の実施方法、通信課題の概要		時間数	通学 時間数	通信 時間数
<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後介護職を続ける上で継続的に学ぶべきこと、研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例を紹介する。 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで就業後に必要な研修の在り方について話し合う。一人ひとりのスキルアップを目指す意思を発表する。 		1	1	—
合計		4	4	—